

第2回 町会・自治会のあり方と区との協働に関する調査研究委員会（会議記録）

□日時 2014年10月10日（金）10時～12時

□場所 品川区役所本庁舎5階第5委員会室

□参加者

＜学識者＞

委員長 名和田 是彦（法政大学法学部教授）

副委員長 大島 英樹（立正大学法学部教授）

学識委員 藤井 賢一郎（上智大学総合人間科学部准教授）

＜町会・自治会関係者＞

副委員長 近江 清光（品川区町会連合会会長・大崎第一地区町会自治会連合会会長）

委員 保科 義和（品川区町会連合会副会長・品川第二地区町会連合会会長）

委員 鶴見 一三（品川区町会連合会副会長・大井第二地区連合町会会長）

委員 関 召一（品川区町会連合会副会長・荏原第二地区町会連合会会長）

委員 千葉 雅雄（品川区町会連合会副会長・荏原地区第四連合町会会長）

＜品川区＞

委員 本間 敏明（副区長）

委員 山田 恵美子（副区長）

委員 桑村 正敏（企画部長）

委員 中川原 史恵（地域振興事業部長）

委員 榎本 圭介（健康福祉事業部長）

委員 松代 忠徳（防災まちづくり事業部長）

＜事務局＞

企画部行財政改革担当課長（柏原）、地域振興事業部地域活動課長（久保田）、企画部企画担当主査（狩野）、企画部企画担当主査（勝亦）、地域振興事業部地域活動課地域支援係長（安藤）、㈱ダイナックス都市環境研究所・NPO法人横浜プランナーズネットワーク（山本、北坂、内海、杉野）

□次第

1. 開会
2. 第1回の議事要旨等について
3. 町会・自治会会長アンケートについて
4. 町会・自治会の現状と課題～他自治体等の動向を踏まえ～
5. 意見交換
6. その他
7. 閉会

（会議要旨）

1. 開会

2. 第1回の議事要旨等について

説明者：事務局（品川区）

○議事要旨について

3. 町会・自治会 会長アンケートについて

説明者：事務局（ダイナックス）

○アンケートの趣旨について

- ・町会・自治会の現状を把握することが目的である
- ・アンケートの対象者は品川区全ての町会・自治会。会長に直接回答していただく
- ・次回の第3回調査研究委員会の際に一次的な集計結果を提出する

・個人情報等に関しては留意して行う

【質疑】

町会・自治会関係委員：予算と積立金は会員数によって違うと思うので、会員数の項目を追加してはどうか。

認可地縁団体のなかで会館を保有しなくなった団体がある（大家から返してくれと言われて）。

また、亡くなった人のハンコをもらわないと認可地縁団体となっても登記ができないなどの問題があるため、最近は登記する団体が少なくなってきている。

委員長：認可地縁団体への移行がどれくらいか検討してみても。

町会・自治会関係委員：認可地縁団体になれない団体もある。財産（会館）があるかどうかの事情でなれないという現実がある。

町会・自治会関係委員：会館の借地権について。当時の会長の個人名義で会館や土地を借りていたため、相続した息子がここは父親の財産だと言って町会のものじゃないから返せと言ってきた例がある。

委員長：潜在的ニーズはあると思うので、認可を受けたいと考えている自治会の数を把握できるようアンケートの質問項目を入れてみてはどうか。

事務局：地方自治法の改正で、来年から登記簿上の所有者の同意がなくても町会・自治会名義での登記が可能になるため、会館を持っていて認可を受けていない町会に対しては来年度から積極的にアプローチしていきたいと考えている。アンケートのなかで、認可を受ける意向を聞いてもらおうとよいのでは。

町会・自治会関係委員：登記したくても登記簿上の所有者のハンコがとれないからと言って諦めている自治会も多い。

委員長：アンケートの設問を工夫して、潜在ニーズを掘り起こせるようにしたい。

アンケートは会長を対象としているが、会長が答えやすいような配慮が必要だと思う。

アンケートの回収率は、役所のカプラスもうひと押しで100%を目指していただきたい。

その他、アンケートの選択肢等でなにかあるか。

区関係委員：「行政」という言葉が問16と問28にあるが、上記以外の自由記入を設けてはどうか。

問28に関しては、「行政」＝「区役所」と受け取りがちなのだが、警察や消防署にも行って欲しいという声をよく聞くのだが、このアンケートは何を意図して行政というのか。区役所のことなのか、全ての行政機関を言っているのか明確にすべきでは。

事務局：設問の意図は行政機関全般なので、警察や区役所も含む。

問28の選択肢4と5の違いについて、「4. 行政は町会・自治会に対して依存しすぎだ」は「下請け」的なニュアンス。「5. 行政から依頼される仕事が多すぎるので減らすべきだ」は受ける側として会長の立場で言うと行政からいろんな仕事がおりにきてという「量」のこと。町会・自治会の業務・役割を仕分けして負担を減らせないかということ。4と5はセットとして考えていただきたい。

ご指摘のとおり、4と5の「行政」という表現についてはもっと明確にする。

委員長：問28について、町会・自治会の業務は増えてきているのか。

町会・自治会関係委員：感覚的に仕事は増えている。

「行政」という表現について、警察官、消防署、区役所と分けて聞いてくれたほうが良いと思う。

警察からも振り込め詐欺に関する仕事が増えてきているため、別々に質問してくれたほうがわかりやすい。防災訓練に関しては、品川区と消防署の両方からお願いされている。なので、いろんな行政機関から仕事が増えている。

委員長：機関を分けて質問した方が回答しやすいかもしれない。

町会・自治会関係委員：いろんな団体から仕事を依頼されている。

町会・自治会関係委員：赤十字などからも依頼がある。

町会・自治会関係委員：問28について、書くことがいっぱいあると思う。町会・自治会の仕事が多すぎる。周期的にくる行事（民生委員選考や国勢調査等）が大変である。国勢調査は町会より10数名程度出しているが、大変だという声を聞く。民生委員の選考にあたっては行政がやるべきと考える。会長は地区長にふるからいいが、地区長に聞くと特に赤十字の募金活動が大変だという。神社に学校、消防署など依頼がどんどんくるから多忙である。警察関係は副会長になど担当を分けるようにしている。

町会内の高齢化の問題がある。認知症の症状がでてきている人もいるので、仕事を任せられる人が少なく、若い人は平日活動ができないため、結局全て自分でやっている。

委員長：このなかでいくつかアンケートに列挙できるか。選択肢に具体的な例（国勢調査等）を列挙し

たほうがいいのかもわからない。

行政という書き方が、地域センターを通してはいるが、国だったり都だったりもする場合もあるため、個別に列挙したほうがいいのか。

問16について、社会福祉法人は保育所等も念頭においているのか。社会福祉法人ではなく、保育所等福祉施設のほうがわかりやすいのでは。

学識委員：福祉保育サービス提供機関はどうか。

委員長：保育所その他の福祉サービス機関などもいいかもしれない。

問12について何かあるか。

学識委員：民生委員については、ヒアリングを通して実態を把握してはどうか。

委員長：アンケート以外にヒアリングも実施予定である。民生委員以外に福祉関係などもヒアリングできるかと。

町会・自治会関係委員：保護司の問題もあると思うが。

学識委員：町会のチームになる役員の方たち（問11）について、会長のもとにどんな組織になっているのか、どういう方が関わりをもって実際に動けるのか聞けたらいいと思うが。

委員長：部会のメンバーの数まで聞くかどうか。数名の部会で動いていると思うが。

町会・自治会関係委員：部会ではなく地区（班）と呼んでいるが、地区を分けて回覧板をまわしてもらったり、会費を徴収してもらったりしている。その数がどれくらいあるのかを聞いたほうがいいと思う。

ただ、仕事をするとなると部会では無理なので町会の役員が全員で取り組んでいる。

区関係委員：町会・自治会の全体把握をする必要があるのでは。これだけ動かしているということを知りたいと思うので、役員数を聞いてはどうか（問10と11の間）。

委員長：役員数は明確なのか。

町会・自治会関係委員：年初に役員名簿を作っているので明確である。

委員長：そうすると明確になるので聞いてみてはどうか。

町会・自治会関係委員：会館を保有している町会が全体の3分の1弱で、その他の町会は神社や公民館を借りてやっている。

事務局：アンケートに全部設問を落としこむのは難しいので、詳細についてはヒアリングで補わせていただきたい。

学識委員：ヒアリングするということで、問13「4. 一人暮らし高齢者の見守り活動」について、一人暮らしの高齢者に対する支援は行き届いているが、2人で暮らしている高齢者や引きこもりの老人に対する支援が滞っている。自治会長はそれぞれの心配ごととはわかっているようなので、自治会長に気になる方の支援はどんなものがあるのか掘り下げてヒアリングで聞いていただくといいのでは。また、自治会にどういうお願いができるのか聞いていただきたい。

問25未加入の方について、気になる方に限って加入していないということを知りたい。加入していない気になる人というのは、（あまり立ち入りもできないと思われるが）どういうお考えか、意識をもっておられるか聞いていただきたい。

問28のように、町会自治会の意見を吸い上げてくるということが今後重要になってくる。団体自治は進んでいるが住民自治はどうなのか。住民の声を自治会長がどうにかたちで掴んで今後引き上げていけるかヒアリングしていただきたい。

委員長：自治会長は地域の相談にのっている。これは重要な自治会の機能だと思う。そこがヒアリングで明らかになるといいと思う。

4. 町会・自治会の現状と課題～他自治体等の動向を踏まえ～

○町会・自治会の現状と課題

説明者：委員長

○町会・自治会による地域課題解決の様々な形

説明者：事務局

5. 意見交換

町会・自治会関係委員：資料4-2について、土地柄が横浜と違うため交通が不便なことの課題などピンとこない。

委員長：新宿区の商店街のほとんどが危機的状態なので、スーパーの撤退や商店街の衰退により「買い

物」はどの地域においても課題になっているのだと思う。品川区でも出てくる問題ではないか。

町会・自治会関係委員：品川区の構図というのは副都心化していく大崎地区、団地が多い八潮地区、旧住宅地荏原・大井（一部）である。その他は大井町の駅の近くにあるので、どちらかというとなら商業で旧住民はほとんどいなくなっているということで、横浜市のような地域づくりとはなかなか結びつかず、そのなかで町会をつくるとなると町会の運営の仕方に偏りができる。地区により様々に違った状況である。区内で一定のものを作ることはできない。

委員長：加入率低下についてどう思うか。マンションが入らない、出入りが激しいなどの要因はあると思うが。

町会・自治会関係委員：マンションの管理会社がいるため、会費の徴収はできる。ただし、人と人との交流がない。そのため、加入率と実態はもっと低いと思う。払っている人は管理費の一部として払っているのだから、町会のことは知らないと思う。

委員長：サロン活動などは、町会は支援しているのか。

町会・自治会関係委員：町会によって異なる。町会が協力しているところもあれば、区から補助金が交付されているところもある。

町会・自治会関係委員：敬老会（高齢者クラブ）と自治会との関係はどうか。

町会・自治会関係委員：近隣の大学が新たに建てた建物の1階を町会で集会室として借りられることになった。大学側の都合もあり、町内会館の名前は使えない。集会所ができることによって定期的な活動ができることから、休眠状態だった高齢者クラブを復活させる予定。地域センターを借りて活動していると、毎週確実に借りられるかわからないので予定を立てられないので定期的な活動が難しい。

町会と敬老会の関係であるが、町会内にあつて別組織になっている。

委員長：サロンに補助金を交付したり会館を貸したりという活動が品川にあるということだが、子育て系やその他福祉系の活動の支援はどうか。

学識委員：介護保険制度が2000年にできてから、ヘルパーを利用することで地域に頼らなくても一人でやっていけるということで、資料4-1の加入率の低下につながったのでは。

来年の法改正で「生活支援」が変わる。資料4-2（p4）自治会等による地域課題解決の様々な形のなかで、③「自治組織の呼びかけで、必要に応じてNPO（組織）を設置」、④「自治組織と連携し、個人・NPOのネットワーク組織を設置」のような活動をしなければならない。自治会のみなさんが頭を使って案を出していただいて、今までだと行政の補助金でやってきた福祉的な活動においては、場所を借りるにしてもNPOをお願いするにしても、お金が相当使いやすくなって様々なことをやろうと思えばやれる仕組みになる。場所やお金について介護保険の方で割合元気な方々への活動支援は地域の力量でやってもらおうということになってきているので、自治会長が指示・指導をして新しいものを作っていったメリットを感じつつ福祉をやらなければならない。

委員長：品川区の実情に則した町会・自治会の地域の生活支援の方向性がある。委員がおっしゃったとおり、町会が司令塔となり、自治会間や町会間をうまく組織して（補助金を出すなど）、そのなかで自治会町内会の重要性を地域の方々に知ってもらおうということなのでは。そのためのニーズについても個別ヒアリングで洗い出していただけるといいのではないかと期待している。

6. その他

事務局：次回第3回目の調査研究委員会は12月5日（金）を予定している。

7. 閉会

以上